



須恵第一小学校  
御手洗裕子先生

本校の子どもたちは元気な子どもが多く、給食を楽しみにしてくれています。また、あいさつがとて上手です。

本校では給食を通して人間関係をづくり、自分で栄養を考え、食べることができる子どもの育成を目指しています。そのため給食を身近に感じ、安心安全な給食の提供につとめています。地域の野菜や味噌・豆腐などを使い、生鮮野菜は地元業者から仕入れて給食を作っています。

偏食が多い子もいますが、大半の子どもたちは6年間で苦手なものを克服しています。これからも色々なことに粘り強くチャレンジする子どもたちに期待しています。

ある日、高学年の子が私の所に走ってきて、「先生、すずめが廊下にあります。」と言いに来ました。つかまえてやる、手のひらでそっと抱えて、外に放っていました。すずめのひな鳥を見つめる眼差しが優しかったことをよく覚えています。

優しい心は動物だけではなく、友達同士にも向けられています。休み時間にも、一人でいる友達にさり気なく声をかける子を何度も見かけました。学習中は難しい問題を頭を寄せ、知恵を出し合って解く姿がどの教室でも見られます。

さまざまなかかわりの中で、二小の子は豊かな心をふくらませています。



須恵第二小学校  
今田雅弘先生



須恵第三小学校  
中村隆先生

夏休みのお昼は、校長先生主催の「素麺流し」が始まりました。鍋の一声のもと、職員は阿吽の呼吸で準備に取り掛ります。手作り料理もどっさり届き、男性陣は残菜ゼロに貢献です。手際の良い楽しいお昼のお陰で、昼休みの空いた時間でバトミントンや水泳、筋トレを和気あいあいとし、歓声や笑いに溢れています。職員同士が仲良くなるので、逆に研修では子どもたちのことを考えた真剣な議論ができます。

こんな職員の影響を受けているのでしょうか。子どもたちの遅刻と欠席が減りました。三小の職員は夢に向かってともに学び合い、一人ひとりが輝く子どもの育成に向けて頑張っています！

私は、今年の四月に須恵第三小学校から須恵中学校へ異動してきました。小学生の頃から本校の生徒を見てきて感じることは、本校が目指す生徒像である、「あいさつをすすんでしてくれる」「ことと、「黙働掃除をとて頑張っている」ということです。

須恵町では、小学校からあいさつ運動や黙働掃除の取り組みをしていますので、その積み重ねがよくなってきていることをとても感じます。

「凡事徹底」と言う言葉にもありますように、当たり前の事を当たり前にできる、そんな須恵中学校の生徒でこれからもあって欲しいと思っています。



須恵中学校  
荒谷政祥先生



須恵東中学校  
尾崎重乃先生

須恵東中では、校長先生のリーダーシップのもと「素直な心」「ありがとう」「言葉づかい」「掃除」「身なり」の5つを目標に教育活動を行なっています。希望の階段や鍛錬坂を登り、朝から元気にあいさつする生徒の姿は、中学生らしく、とても清々しいものです。

今年度「鍛えよう！ほめよう！プロジェクト」が始まり、約70人の生徒が自主的にボランティア活動に参加しています。公民館や通学路、須恵第二小学校の体育館の清掃を通して、地域の人から感謝されることの喜びを感じています。

今後、はつらつとした生徒の姿をめざし、よく褒め、育てていきます。

## スクールソーシャルワーカー インタビュー



荒巻智之先生  
山内未紗希先生

を解消するために、いろいろな制度を使えないか検討します。僕たちは子どもの声を吸い上げて、それを表面化、現実化する代弁者ですね。

山内未紗希先生（以下、山内先生）  
子育ての悩みや生活の不安など、どこに相談してよいか分からない悩みを抱える家族は多くあります。そういう家庭と話し、社会や地域、学校とつなぐのが私たちの仕事だと思っています。

■SSWを目指したきっかけについて教えてください。  
山内先生 高校三年で進路を考えていた時に、福祉の道に進みたいと思いついて、中も子どもとかわりたいて考えました。同級生に不登校や行き渋りの子がいて、その子から相談を受けた時、自分は何もできなかった、その歯がゆさから何かできる人になりたいと思い目指しました。

■SSWの仕事はどのようなものですか？  
荒巻智之先生（以下、荒巻先生）

子どもは権利を守り、制度や手当を受けられないことで不利益な状況が発生していればそれ

■SSWとして心掛けていること、また、やりがいを教えてください。  
荒巻先生 保護者や子どもたち自身が意志決定できるようなかかわり方を心がけています。各家庭の子育ての仕方を一度受け止めて、それから、考えてもらいたいところを一緒に考えます。

僕は常に、子どもたちが大人になって社会に出た時に困らなくてすむよう、数年後のことだけではなく、より先を見通して、

支援の方法を考えるようにしています。

やりがいは、困った時に必ず助けてくれる人が周りにいることを伝えられることと、子どもたちの笑顔が見えて、感謝の言葉があることでしょうか。あと、今まであまり関与しなかった機関の結びつけがうまくいって、生活が劇的に変わった家庭の様子などを見ることが嬉しいです。

山内先生 私たちは人や機関のつなぎ役になることが多いので、その関係のパイプがうまくいっていないようにしたいと思っています。子どもたちの意見も先生たちの意見も聞き取れるように、そして、それぞれに答えていけるように気をつけてやっていきたいと考えています。

やりがいは、「先生がいるから学校に行こうかな」といわれることです。

■伝えたいことはなんですか？  
荒巻先生 僕たちを気軽に使って欲しいと思います。困った時に、この人たちに聞いたら何か

